

学会記事

日本鉱物科学会 平成24年度第3回 定例評議員会議事録

日時：平成25年9月11日（水）18:15～20:00

会場：筑波大学 第一エリアC棟3階305室

評議員会出席者：

会長：村上 隆，副会長：小山内康人

評議員：赤坂正秀，石渡 明，榎並正樹，片山郁夫，木村純一，
奥山康子，大藤弘明，鍵 裕之，佐藤 努，角替敏昭，
伴 雅雄，平島崇男，宮島宏，森下知晃，阿部なつ江，
井上 徹，黒澤正紀，留岡和重，永井隆哉，長瀬敏郎，
中村美千彦

委任状：廣井美邦，坂本尚義，小暮敏博，高澤栄一

欠席者：土山 明，本間 寿，宮嶋 敏，小澤一仁，土谷信高

報告者出席：庶務幹事：永井隆哉，会員幹事：佐藤 努，会計幹事：

中村美千彦，行事幹事：大和田正明，和文誌編集幹事：赤坂正秀，英文誌編集幹事：平島崇男，渉外幹事：井上徹，Elements幹事：鍵 裕之，特務幹事（会員増対策担当）：片山郁夫，特務幹事（対外雑誌担当）：大谷栄治，会計監査委員：加々島慎一，三鈺連絡委員：永井隆哉，大和田正明，選挙管理委員会委員：外田智千，地球惑星科学連合2013年度学会選出プログラム委員：角替敏昭（正）・三宅 亮（副），地惑連合連絡担当：大谷栄治，石渡 明，黒澤正紀 行事委員会委員長：黒澤正紀幹事，副委員長：磯部博志，GKK編集委員会委員長：赤坂正秀幹事，JMPS編集委員会委員長：平島崇男幹事，渉外委員会委員長：井上徹幹事，広報委員会委員長：伴雅雄幹事，Elements委員会委員長：鍵裕之幹事，将来企画委員会委員長：小山内副会長，教育普及委員会委員長：奥山康子，新鉱物・命名・分類委員会委員長：宮脇律郎，博物館委員会委員長：坂野靖行，2014年年会LOC委員長：西山忠男

会議に先立ち，大藤弘明評議員が書記に選出された。

I. 報告事項

1. 会員報告（佐藤会員幹事）

平成24年度第2回評議員会以降の会員動静について，シニア会員8名一般会員13名，学生会員14名の退会者があったことが報告された。事務局ではJAMS年度末に，学生正会員の次年度会員種確定のため，本人と指導教員宛てに学籍調査をしているが，昨今学生正会員が就職した場合，連絡が取れなくなる場合が多くなっているため，指導教員から本人へ，連絡先変更届，学会在籍の意思表示を事務局に連絡することを徹底，協力をお願いしたいとの要請があった。

2. 広報報告（伴広報幹事）

第2回評議員会以降，学会事務連絡，公募案内，関連学会案内など会員へのML送信を16回実施したこと（1年間で46回），連合大会の鉱物科学会ブース展示報告をGKK, Elementsに掲載依頼し，電子アーカイブから漏れていた岩鉱31巻5号，6号(1944年)を学会WEBサイトに公開したこと，また，学会WEBサイトのデザインを微修正予定であり，来年の連合大会でもブース展示を行う予定であることなどが報告された。

3. 渉外報告(井上渉外幹事)

2013日本地球惑星科学連合大会（2013JpGU）の際，鉱物科学会のブースにおいて，本学会会員執筆書籍の展示を行ない，

日本鉱物科学会2013年年会においても引き続き行っているとの報告があった。

4. 和文誌（GKK）編集報告(赤坂GKK編集幹事)

9月10日現在，平成24年度中に発行された岩石鉱物科学41巻5号(9月)～42巻4号(7月)の掲載件数と頁数は次の通り。原著論文4件 50p，短報1件 5p，総説13件171p，資料・解説6件41p，新刊紹介8件 4.5p，ニュース（他学会案内，教官公募等）3.5p，投稿規定 6p，学会記事（評議員会・総会議事録，連合ニュース等）33p，2013年会案内・プログラム 27p，追悼文1p，総目次2p，広告10件 5p，白頁 2p，合計352頁。(1)発行，編集状況：42巻4号（7月号）発行済み。42巻5号（9月号）特集号1編（準備中）。受理論文2編（うち1編早期公開中）。現在査読中論文：5編。その内受理予定0編。(2)特集号「日本の花崗岩とテクトニクス」（8月末原稿〆切，平成26年3月（43巻2号）以降発行予定）。(3)編集委員会体制：前年度から交代なし。(4)その他編集担当委員名を論文脚注に記載することとなった。

5. 英文誌（JMPS）編集報告（平島JMPS編集幹事）

9月7日現在，平成24年度中に発行されたJMPS107巻5号(10月)～108巻4号(8月)の掲載件数と頁数は6号分で次の通り。Reviews 0件0p，Article 19件 229p，Letter 15件84p，Technical 0件0p，Editorial 1p，Errata 0p，投稿規定6p，Index 3p，Contents 4p，白頁1p，合計328頁。(1)発行状況：108巻4号(8月)電子ジャーナル公開済み。冊子9/17発送予定。108巻5号(10月)原著論文5編（1編早期公開，4編印刷確認中）と連合Letter 1編(印刷中)(2)編集状況：2013年9月7日現在：査読中論文 12編，返却中5編。2012年10月1日から2013年9月2日まで（カッコ内数字は昨年，一昨年の数字）：総投稿数40(55，47)編，通常原稿21(37，29)編，年会Letter12(12，12)編，連合Letters7(6，6)編[うち海外投稿数10(18，17)編]。査読終了原稿数25(33，31)編，[うち受理原稿19(15，23)編，不受理（含取下げ）原稿6(18，12)編]，査読中原稿15(22，14)編。(3)2013年年会講演を対象にLetterを募集中である。(4)投稿数アップのための対策として，A：年齢制限（若手）に限定した論文賞の新設，およびB：英文校閲を受けた原稿が投稿された場合，査読者に何がしのインセンティブを与える，C：特集号の発行が提案された。(5)J-STAGEを利用した投稿審査のシステム使用料の一部負担について説明があった。

6. 庶務報告（永井庶務幹事）

平成24年度第2回評議員会以降のメール発信は，評議員会関連6件，会員への連絡6件を行った。また，2014年連合大会プログラム委員選出など5件の連合関係の事案に対応した。後援，共催，協賛2件について報告があった。

7. 行事・年会報告（黒澤行事幹事：代理庶務幹事）

現在2013年9月11日(水)から13日(金)まで筑波大学第1エリアにて日本鉱物科学会2013年年会・総会が開催されていること，2014年連合大会が2014年4月28日(月)から5月2日(金)の期間，パシフィコ横浜で開催されること，日本鉱物科学会2014年年会・総会が，2014年9月17日(水)～19日(金)に熊本大学で開催される予定であることが報告された。

8. Elements報告（鍵Elements幹事）

Elements Society Newsについて，2013年度はNo.1～No.5までが対応済みで，No.6についても現在編集集中であることが報告された。また，各選考委員長は，学会各賞受賞者紹介記事をElements誌に掲載している旨を受賞者に伝え，その上で各選考委員長が紹介記事の英文執筆を受賞者に直接依頼するという手順を徹底するよう要請があった。

9. 評議員選挙報告 (外田選挙管理委員)

平成25年度評議員選挙結果について、次のような報告があった。

評議員：任期3年：(平成25年9月12日～平成28年総会まで)
安東淳一、池田 剛、大和田正明、河上哲生、川本竜彦、土屋範芳、平賀岳彦、宮脇律郎、柳澤教雄、吉朝 朗
(以上五十音順)

<次点> 榊原正幸

総投票数：271票 (WEB投票245票、郵送投票26)、
無効投票数：10票 (WEB投票10票、郵送投票0)
正会員立会い：本吉洋一、海田博司

10. 将来企画委員会報告 (小山内委員長)

9月11日(水) 12:00-12:30に開催された第11回将来企画委員会で議論された法人化について、平成26年5月の評議員会を目的に、何らかの結論を出すべく、更に調査検討をすることが報告された。

11. 教育普及委員会報告 (奥山委員長)

地惑学会期間中にJpGU 教育問題検討委員会が開催され、1年間の活動方針を決定し、5月18日の地学教育シンポジウムをうけて次期学習指導要領での地学教育のありかたを検討していく旨、報告された。なお、鉱物科学会教育普及委員会としても、この問題についてのメール会議を開始した。

11.1. 三鉱連絡会報告 (大和田委員)

5月23日(木) 12:00-13:00に幕張で開催された連絡会において、三鉱会員名簿(2013年度版)の作成について、①電子版で作成すること、②今回は、資源地質学会側が主体となって作成すること、③電子版の作成に関するセキュリティ面について協議したこと、資源地質学会とモンゴル資源鉱物学会との間で協定を結ぶことを現在協議中であることが報告された。

11.2. 地惑連合報告(大谷連合連絡委員)

1) 2013年大会報告と2014年大会の方針、2) 連合大会の投稿システムの更新、3) 選挙管理委員会の設置および代議員の選挙、会長・副会長・理事・セクションプレジデントの選挙、4) AOGS2014年札幌大会の準備状況、5) 大型プロジェクトに対する提言、6) 連合での表彰制度の統一指針、7) ユニオンサイエンスボードについて報告があった。

11.3. 学術会議報告 (大谷学術会議連携委員)

(1) 地球惑星科学委員会および大学教育問題分科会、(2) 地球惑星科学における大型研究の改訂作業、(3) 国際対応分科会、(4) IMA分科会について報告があった。

11.4. その他の報告

(1) 会員増対策状況、(2) 2014年年会(熊本大学)開催準備状況、(3) 2016年のGoldschmidtの日本開催状況、(4) 2014年世界結晶年開催状況、(5) 対外(JpGU)雑誌担当について報告があった。

II. 承認事項

1. 会員承認 (佐藤会員幹事)

以下の正会員3名、学生正会員19名の入会申込書が回覧され、入会が承認された。また永年会員への移行4名(石原舜三、久城育夫、鈴木堯士、堀 秀道)と復活1名(先山 徹)が承認された。議決により転居先不明者2名が除名となり1名は調査することとなった。なお、除名対象者13名は再確認することとし、半年後まで会費納入がなければ除名とすることとする。

入会の承認 合計22名(入会申込み書別添え)

<一般正会員3名>

| 氏名 | 勤務先名 |
|-------|------------------|
| 岩田 尚能 | 山形大学理学部地球環境学科 |
| 上木 賢太 | 東京工業大学火山流体研究センター |
| 江森健太郎 | 株式会社中央宝石研究所 |

<学生正会員19名>

| 氏名 | 在学先名 | 学年(申込時) | 指導教員 |
|-------------------|------------------|---------|-------|
| 細川 圭太 | 島根大学大学院総合理工学研究科 | M1 | 赤坂正秀 |
| 坪川祐美子 | 横浜国立大学大学院環境情報学府 | M1 | 石川正弘 |
| 塩津 弘之 | 九州大学大学院理学府 | M2 | 宇都宮聡 |
| 正木 翔太 | 九州大学大学院理学府 | M2 | 宇都宮聡 |
| 菖蒲 彩香 | 九州大学大学院理学府 | M1 | 上原誠一郎 |
| 竹田 侑平 | 愛媛大学大学院理工学研究科 | M1 | 大藤弘明 |
| 山下 修平 | 山口大学大学院理工学研究科 | M1 | 大和田正明 |
| 関口 知寿 | 東北大学大学院環境科学研究科 | M2 | 土屋範芳 |
| 島田 玲 | 大阪大学大学院理学研究科 | M2 | 土山 明 |
| 田邊 朋子 | 京都大学大学院理学研究科 | M2 | 土山 明 |
| Purevjav Narangoo | 岡山大学大学院自然科学研究科 | M2 | 富岡尚敬 |
| 川田 早月 | 神戸大学大学院理学研究科 | M1 | 留岡和重 |
| 安武 正典 | 九州大学大学院理学府 | M1 | 中牟田義博 |
| 無盡真弓 | 東北大学大学院理学研究科 | M2 | 中村美千彦 |
| 佐藤永太郎 | 京都大学大学院理学研究科 | M1 | 平島崇男 |
| 陣内 聡 | 熊本大学理学部 | B4 | 吉朝 朗 |
| 堀川 義之 | 山口大学大学院理工学研究科 | D3 | 大和田正明 |
| 松野淳也 | 京都大学大学院理学研究科 | D2 | 土山 明 |
| 則竹史哉 | 岡山大学大学院環境生命科学研究所 | D2 | 河村雄行 |

平成24年度第2回評議員会以降、上記承認後の平成25年9月11日現時点での会員数は967名(一般正会員685名、シニア会員142名、学生正会員、94名、永年会員40名、名誉会員6名)となり、賛助会員、購読会員を含む団体登録は174件、総数1,141件である。以上から、平成24年度中増減内容は、入会一般6名+入会学生27名+復活2名となり会員増合計35名。一方平成24年度中減減内容は、物故2名+退会49名+不明2名+除名3名となり会員減合計56名。以上から、平成24年度会員は昨年度より21名減少した。

2. 平成24年度会計決算報告・承認 (中村会計幹事)

学会財政に関する審議の後、日本鉱物科学会平成24年度会計決算報告を審議、承認された。また、日本鉱物科学会平成24年度特別会計決算報告を審議の結果承認された。

(1) 日本鉱物科学会平成24年度会計決算報告 (後頁表1)

(2) 日本鉱物科学会平成24年度特別会計決算報告 (後頁表2)

3. 平成24年度会計監査報告・承認 (加々島会計監査委員)

加々島会計監査委員より平成24年度の学会会計が平成25年9月5日に加々島・後藤両会計監査委員により行われ、帳簿類、会計内容とも健全に処理されていることが報告され、承認された。

4. Elements編集体制の変更

2014年から井上副委員長を委員長とする新組織に交代する旨、提案があり承認された(新副委員長は委員長が指名予定)。

5. 総会次第案 (永井庶務幹事)

平成24年度総会次第案が提示され、質疑の後、承認された。

総会次第

- 一、 開会
- 一、 議長選出：(司会：会長挨拶)、書記選出、定足数の確認
- 一、 物故会員への黙祷
- 一、 報告及び承認事項
 1. 平成24年度事業報告(会員、広報、渉外、編集、行事、庶務、Elementsなど)
 2. 平成24年度会計決算報告と承認
 3. 会計監査報告
 4. 平成25年度評議員選挙結果報告
 5. その他
- 一、 審議事項
 1. 平成25年度事業計画
 2. 平成25年度予算について
 3. その他
- 一、 日本鉱物科学会賞授与
- 一、 渡邊萬次郎賞授与
- 一、 日本鉱物科学会論文賞授与
- 一、 日本鉱物科学会研究奨励賞授与
- 一、 日本鉱物科学会応用鉱物科学賞授与
- 一、 櫻井賞授与
- 一、 日本鉱物科学会表彰授与
- 一、 日本鉱物科学会ポスター発表最優秀賞授与
- 一、 日本鉱物科学会ポスター発表優秀賞授与

III. 審議事項

1. 平成25年度会計予算案について(中村会計幹事)

学会財政に関する審議の後、日本鉱物科学会平成25年度一般会計予算案を審議、承認された。また、平成25年度特別会計予算案が提示され審議の結果、承認された。

 - (1)日本鉱物科学会平成25年度会計予算案
 - (2)日本鉱物科学会平成25年度特別会計予算案

2. JMPS投稿数アップ対策の件(JMPS平島委員長)
 - (1) 雑誌の編集体制に関して、今後、定年を迎えられた方に関しても編集委員として積極的に編集作業に関わっていただく方針に変更する旨説明があり、審議、了承された。(2) 現印刷会社の契約満了による印刷所の変更について報告があり、審議、了承された。なお、この変更に関する印刷経費面での増加は生じない。(3) 投稿数アップの対策として、若手に限定した論文賞の新設に関して説明があり、審議、了承された。審査規定などの詳細に関しては、今後検討する。
3. 研究奨励賞受賞候補者の人数と選考方法について(森下委員長)

研究奨励賞委員会から現在規定されている受賞者の人数制限、「原則として年2件以内」に関して、人数をできる限りフレキシブルにしたいとのことから該当箇所の変更について提案がなされたが、審議の結果、現状の内規でも2名を超えて候補者を出しても問題はないので内規の変更はしないで、各候補者が奨励賞に値するかどうかを慎重に検討し、状況に応じて内規を柔軟に解釈して選考することとなった。
4. 会員増対策案の件(片山委員)

若手会員増加の対策案として、1) 年会で優秀発表賞を受賞した学生に対し、海外での学会や研究活動に参加するための渡航支援を行う、2) 大学からの支援を受けられない後期博士課程の学生に対して、学会参加費等の免除などの支援を行う旨の提案があり、審議の上、了承された。なお、支援のための金額については今後、具体的に検討する。